

総務省信越総合通信局、信越情報通信懇談会 主催
情報通信利用環境オンラインセミナー
～GIGAスクール構想の実現と教育の情報化の展望～

[講演2]

GIGAスクール時代の 「ネット問題」の捉え方

2021年10月26日

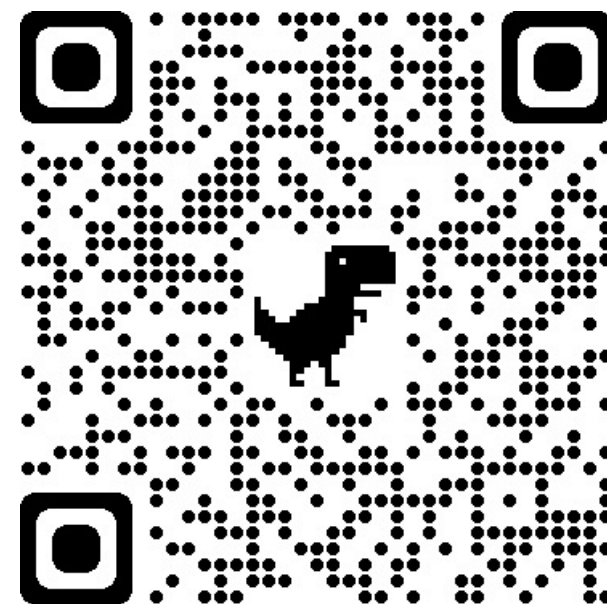
高橋大洋 (株式会社ミヤノモリ・ラボラトリー 代表取締役)

講師自己紹介

テックコーチ。フィルタリングやセキュリティなどIT企業勤務をきっかけに、「ネットとのつきあいかたをオトナにも分かりやすく」に取り組む。子どもとネットの問題についての調査・研究や教材開発、指導者養成の他、保護者・教員向け研修講師としても活動。著書(共著)『学生のためのSNS活用の技術』(講談社)。

株式会社ミヤノモリ・ラボラトリー 代表取締役、子どもたちのインターネット利用について考える研究会 事務局、一般社団法人セーフターインターネット協会(SIA) ネットセーフティ教育プログラム事務局、ピットクルー株式会社 契約パートナー、国立大学法人小樽商科大学 非常勤講師。

札幌市在住、中学生・小学生の子育て中。※個人ページ <https://www.takahashitaiyo.net/>



講演の概要

- 「ネット問題」は、ネット利用に関わる犯罪被害・加害や非行逸脱、健康・発達への影響だけではない
- GIGAスクール環境の実現で、学校に期待される役割は、知識・技能のボトムラインの底上げに
- 大人への期待は子どもの「好き」「楽しい」を受け止められること

子どもたちのネット利用と 本当の課題

子どもたちのネット利用

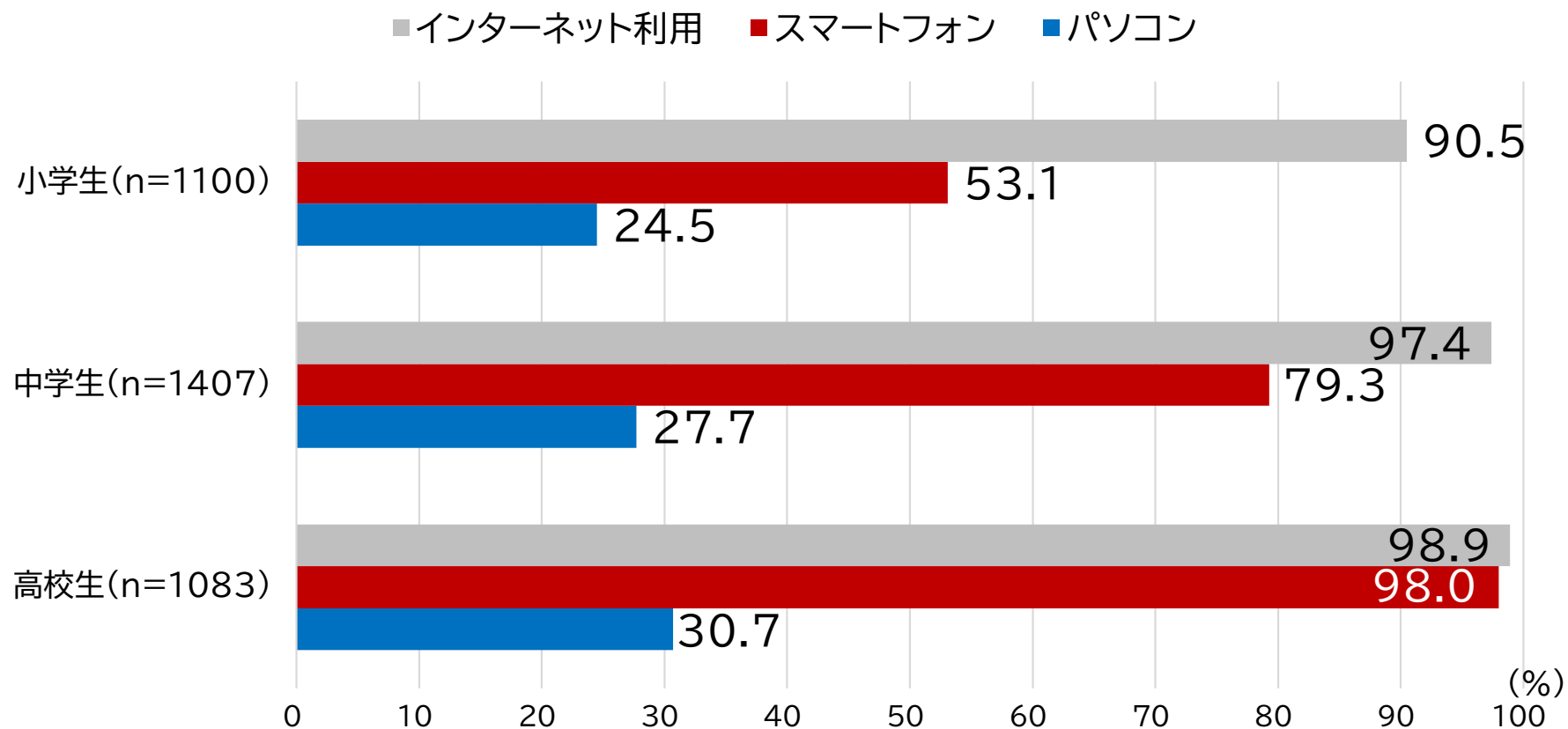
- デビューの低年齢化

- 小学校入学時点までに動画・ゲームに接している
- 小学校高学年段階で、オンラインコミュニケーションを始めている

- ネットがメディア利用の中心に

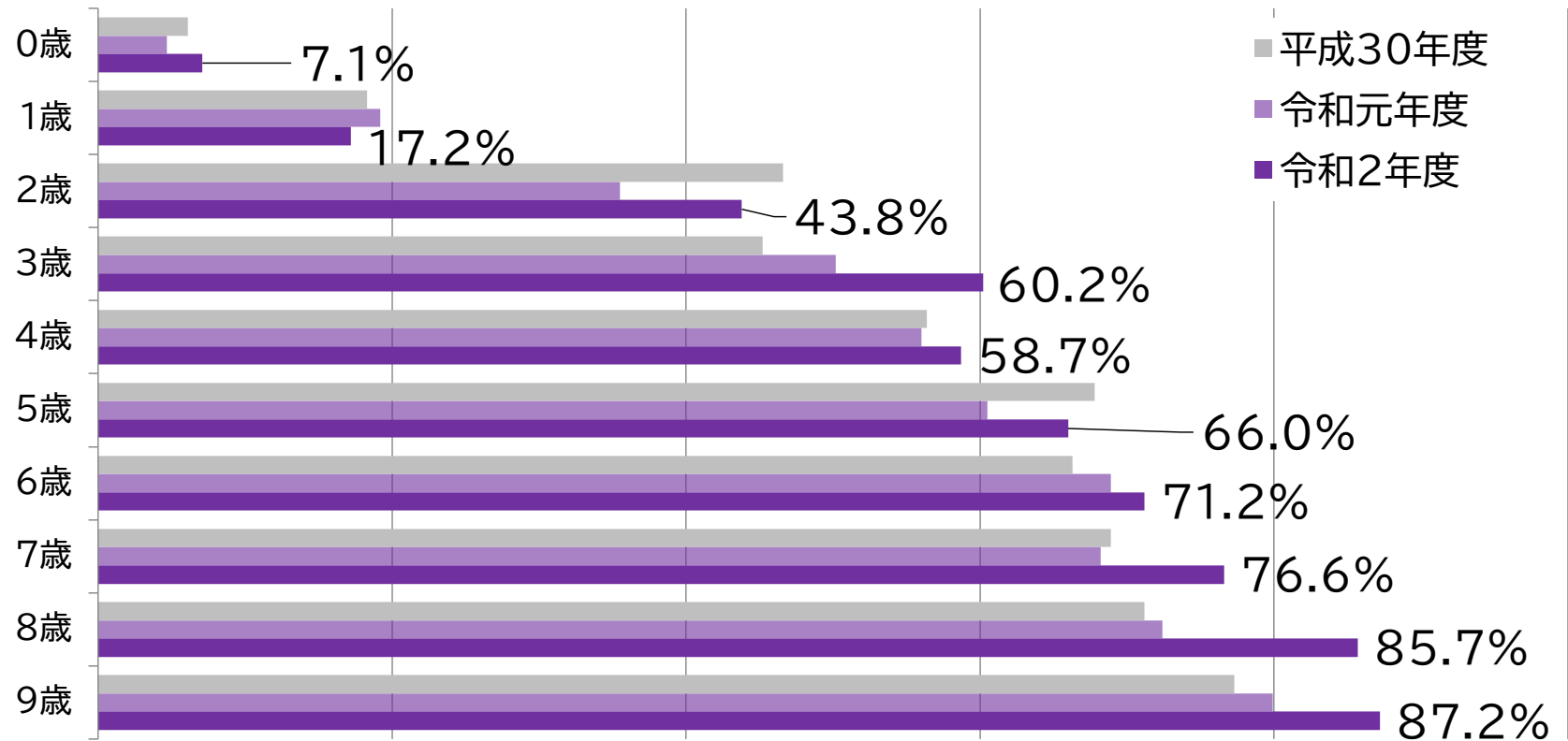
- 見ているものは一人ずつ違う(多様化・分断化)
- SNS利用での大人との共通点は少ない
- 報道に接するのもSNS(利点と懸念点)

参考：児童生徒のネット利用



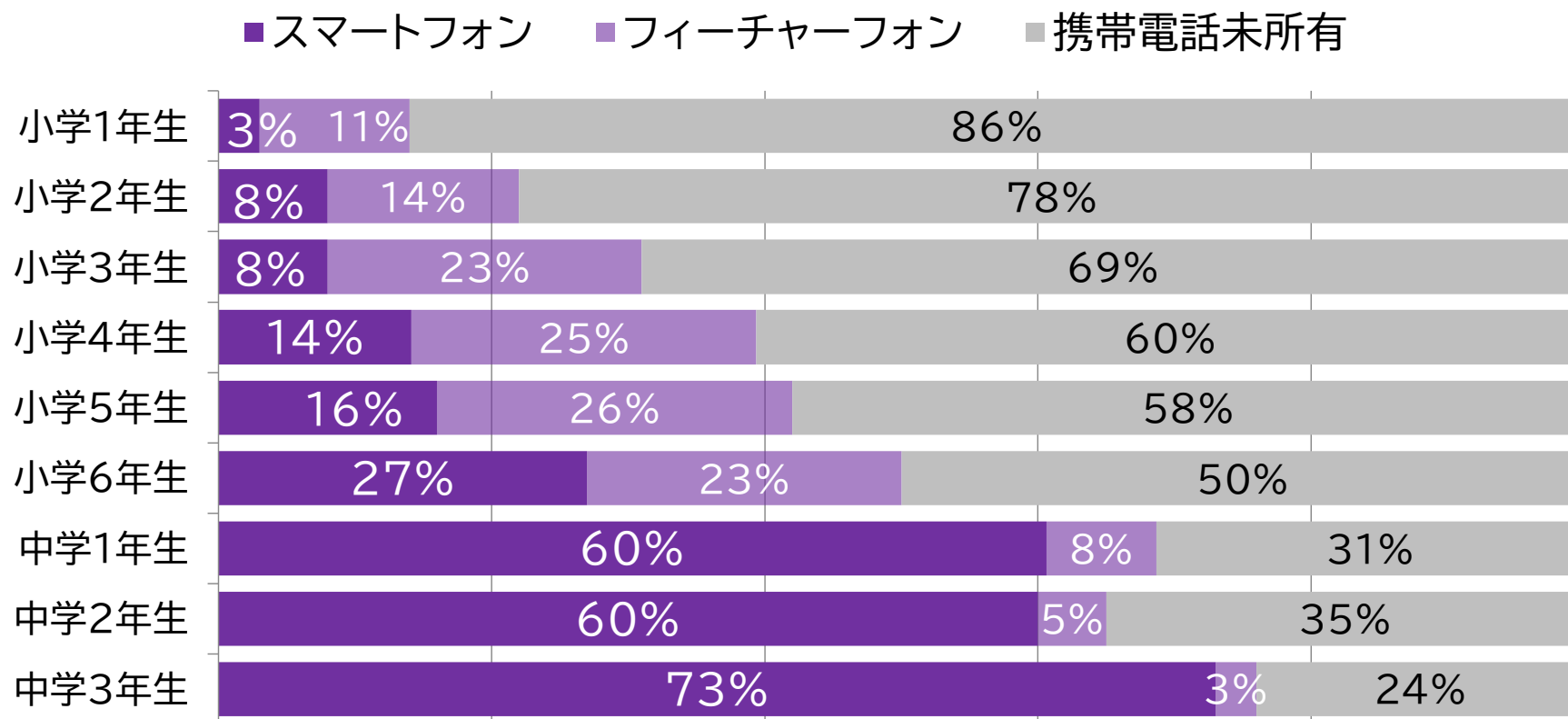
※令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(速報)(内閣府)p.5 青少年のインターネット利用率の経年比較
※小学生は満10歳以上が対象 ※スマートフォンには、格安スマートフォン、子供向けスマートフォン、契約切れスマートフォンを含む
https://www8.cao.go.jp/youth/kankyuu/internet_torikumi/tyousa/r02/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf

参考:シングルエイジのネット利用



※令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(速報)(内閣府)p.7 年齢別のインターネットの利用状況1ほか
https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_torikumi/tyousa/r02/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf

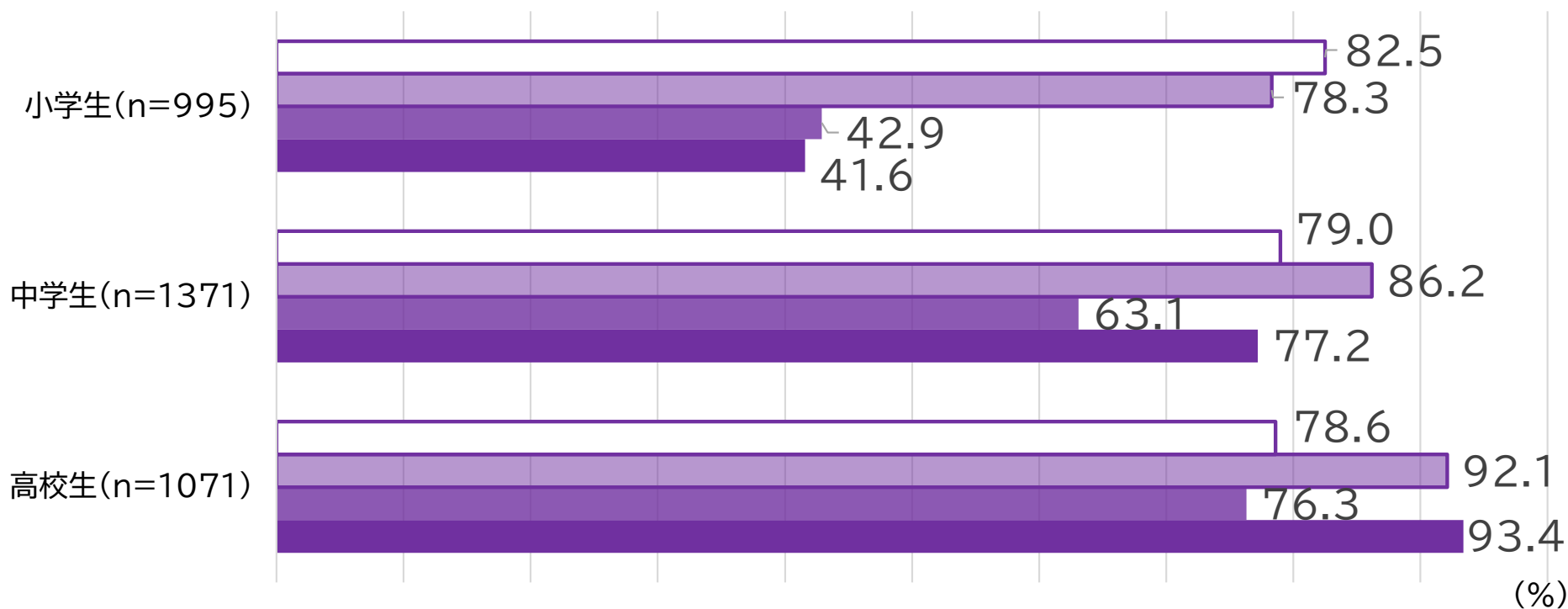
参考：スマートフォン所有率



※モバイル社会研究所「モバイル社会白書2020年版」p.127 自分専用の端末として子どもが所有している携帯電話の種類[学年別]
<https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp20.html>

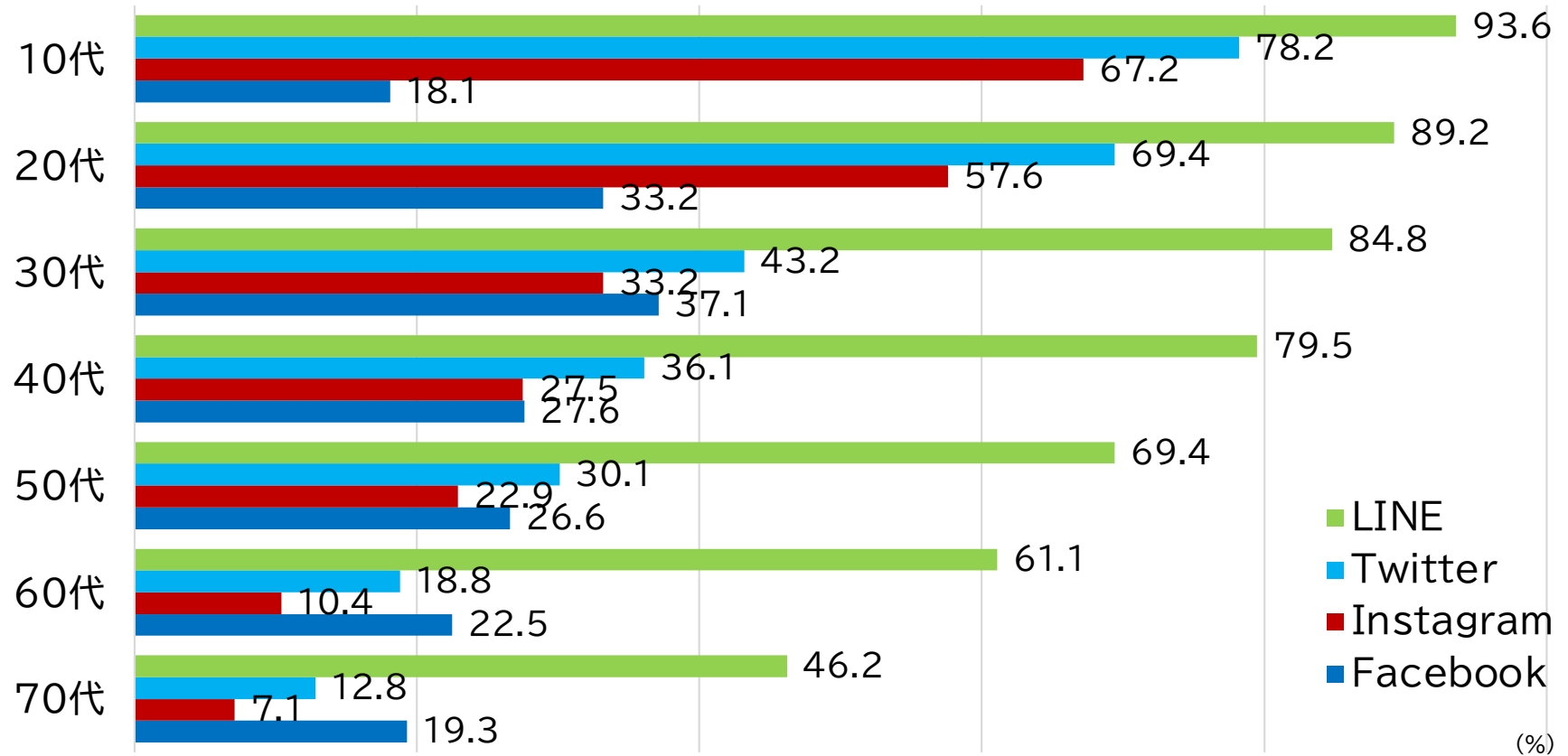
参考：インターネットの用途

□ ゲーム ■ 動画視聴 ■ 情報検索 ■ コミュニケーション



※令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(速報)(内閣府)p.11 青少年のインターネットの利用状況3
(小学生は満10歳以上が対象)
https://www8.cao.go.jp/youth/kankyou/internet_torikumi/tyousa/r02/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf

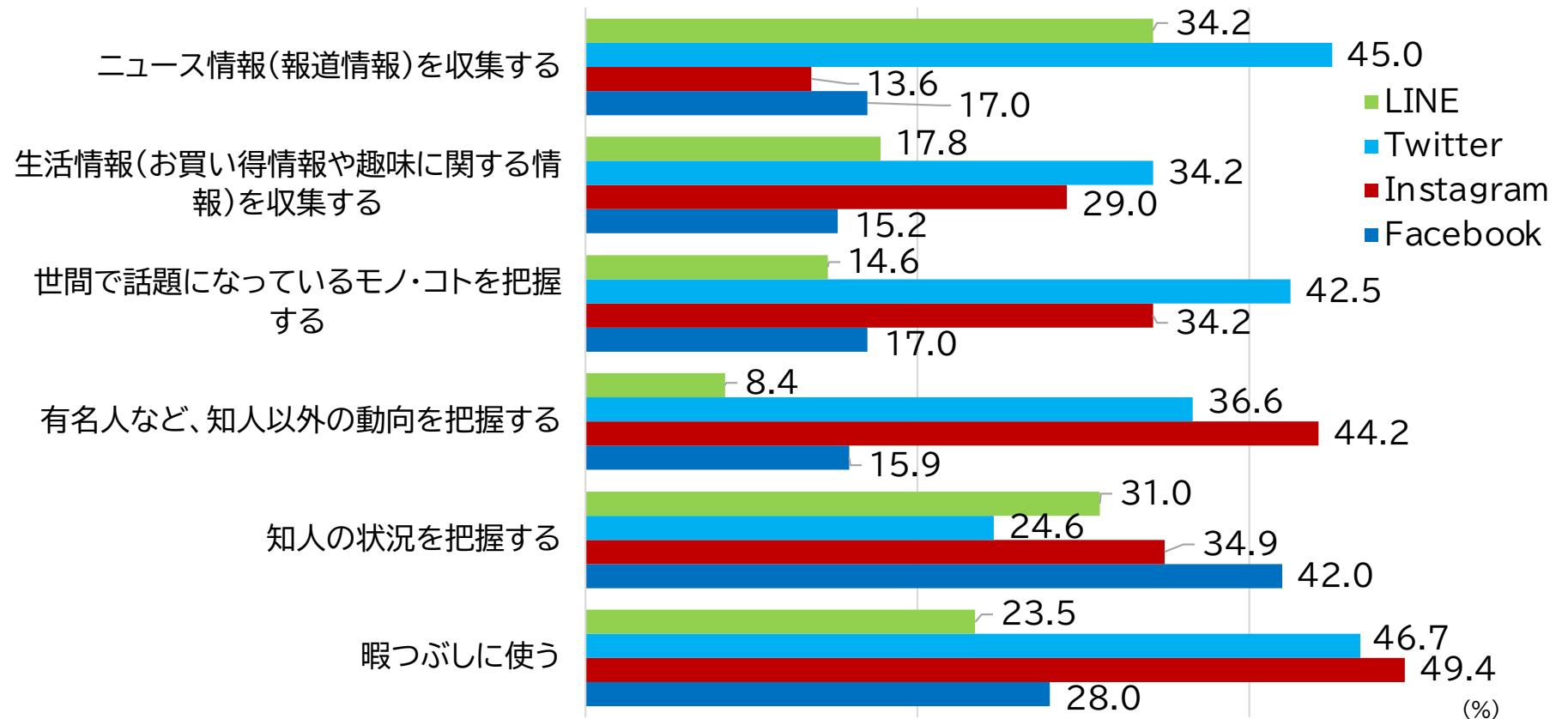
参考：SNSの利用率



※モバイル社会研究所「モバイル社会白書2020年版」p.65 ソーシャルメディアの利用率[年代別]から抜粋
<https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp20.html>

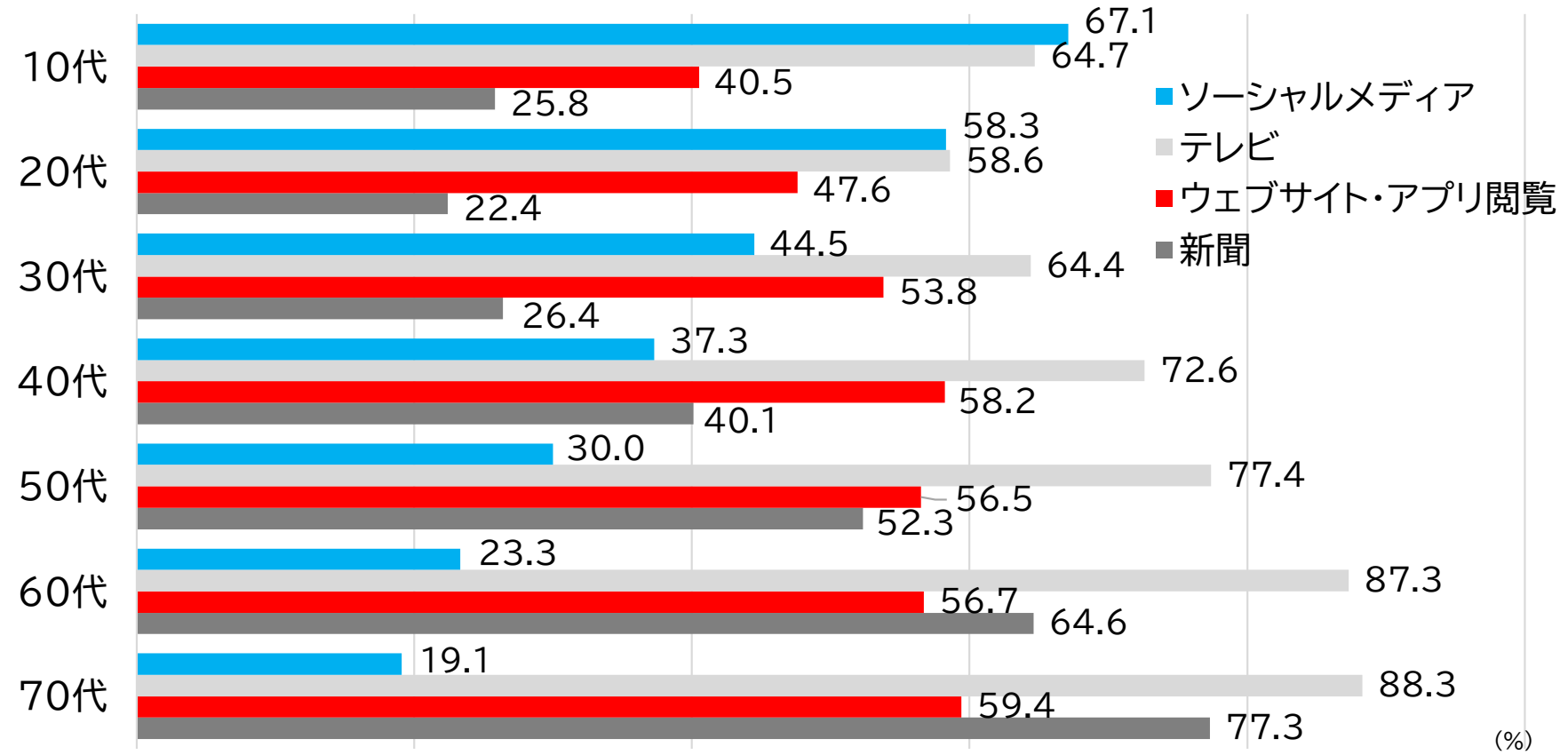
(%)

参考：SNSの用途



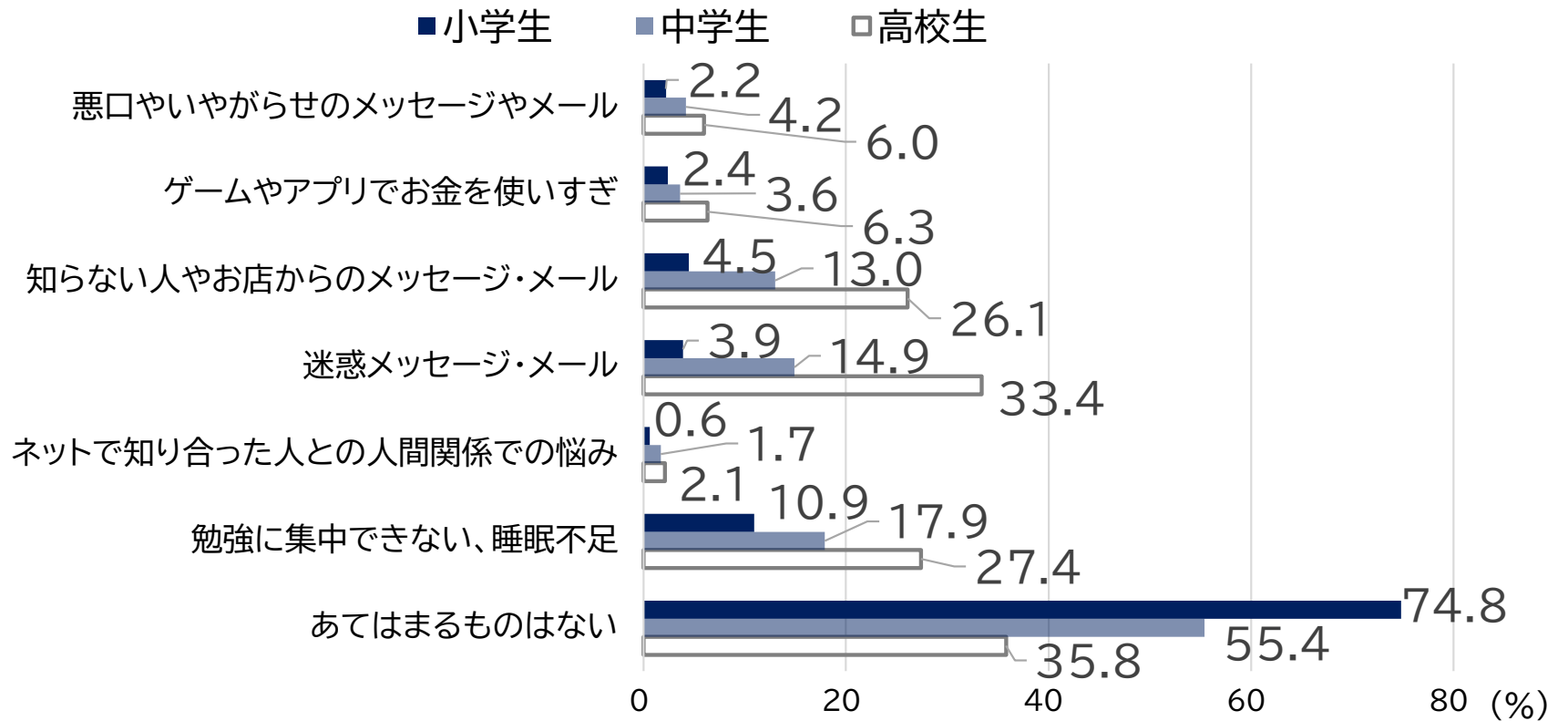
※モバイル社会研究所「モバイル社会白書2020年版」p.72 SNSでの情報収集方法[利用SNS別]から抜粋
<https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp20.html>

参考：報道に接するメディア



※モバイル社会研究所「モバイル社会白書2020年版」p.75 週1回以上アクセスし、ニュース(報道情報)を得ているメディア[年代別]から抜粋
<https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp20.html>

ネット利用トラブル経験の実際




※令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(内閣府)p.99-101 (7)インターネット上の経験 から一部を抜粋・加工
<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r02/net-jittai/pdf/2-1-1.pdf>

トラブルの理由

•子どもに理由

- 知識や経験の不足(学ぶ・試す場面の有無)、未成熟
- 満たされなさ、居場所のなさ(結果としての不適切利用)

•環境に理由

- メディアとしての特性(魅力的、「無料」モデル、)
- 周囲の大人の対応(受け身、場当たり、孤立)

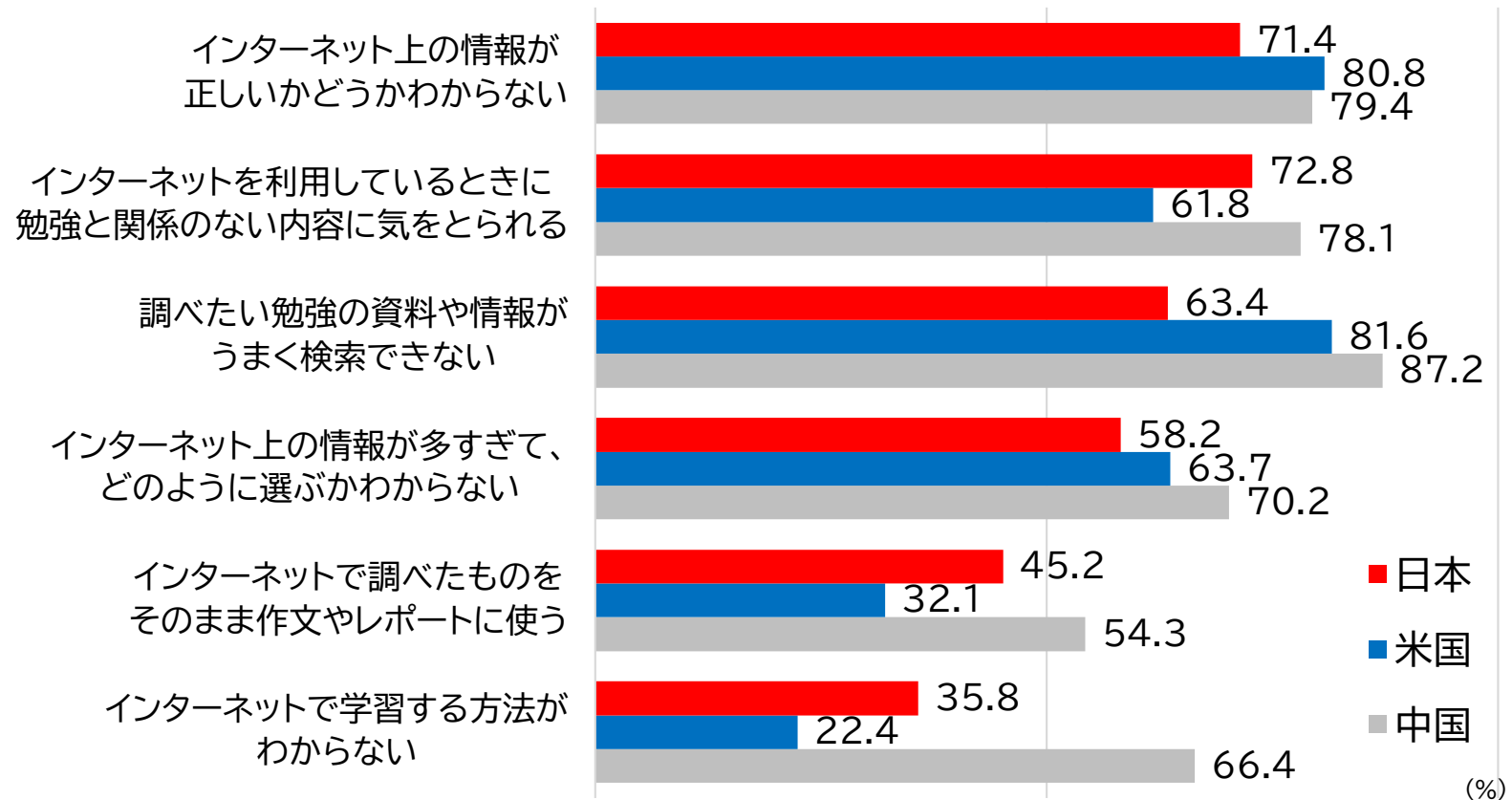
ネット活用スキル習得への期待

- 知識社会・情報社会を支えるインターネット
 - コストダウン(就職活動:ウェブ面接や自己PR動画の当たり前化)
 - より豊かな選択肢(「日経くらい読め」→BBCやTEDトーク、遠隔や非同期での学習が可能に)
- 問われるスキルが変化
 - 前例のない時代:正解する力→問題を見つける・定義する力
 - 多様な他者との協働や、ふりかえりながら学び続ける力

子ども時代は貴重な助走期間

- 基礎的な知識を学ぶ
 - インターネットの特性
 - 利用者(自分・他人)の心理
- 実践(失敗)を通じて技能・自己決定の力を得る
 - 情報の収集・加工・発信(場面ごとの判断)
 - 適切な距離のとり方やバランスの保ち方(時間やプライバシー)

高校生がネット学習で感じること

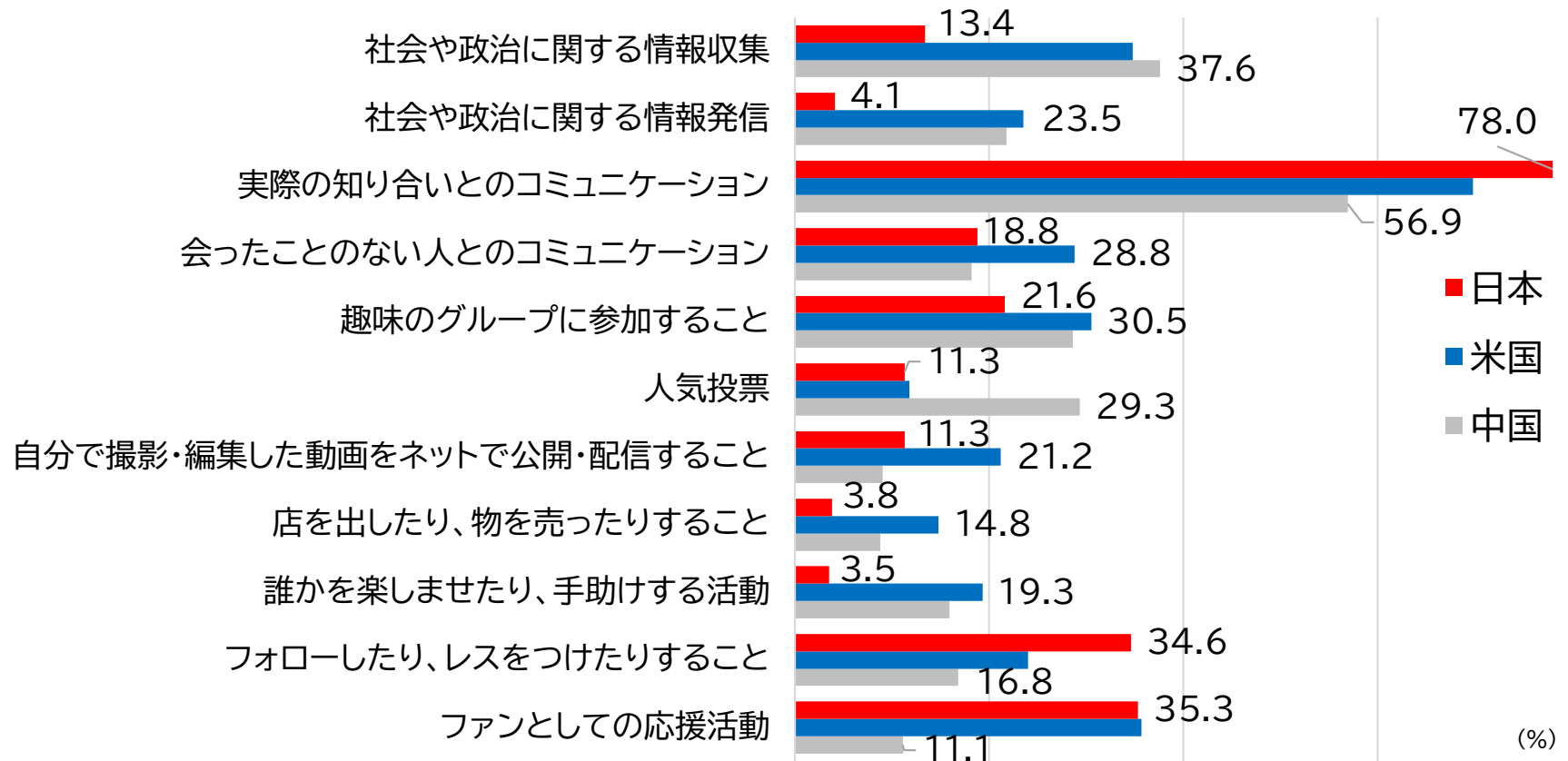


※国立青少年教育振興機構「高校生の勉強と生活に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」(2017年3月)から抜粋
 「よくある」「たまにある」と回答した者の割合 http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/114/

子どもたちのネット利用の本当の課題

- 受け身での(消費・娯楽)利用への偏り
 - 動画閲覧
 - ゲーム
 - フォローしている相手のSNS投稿チェック(閲覧といいね)
- プライベート場面での利用への偏り
 - ダイレクトメッセージや鍵付きアカウントが前提の「内輪」利用

高校生がネットでよくすること



※国立青少年教育機構「高校生の社会参加に関する意識調査報告書」(2021年6月)p.41 から抜粋
https://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/151/



参考：講義受講後の大学生の感想

高校の頃は、SNS上に個人や学校名を特定できるような写真や投稿をした場合には、呼び出され、厳重注意を受けていました。そのため、SNSでの投稿というのは、すごく危険なもの、やるべきではないものと思っていました。講義を受けてその考えが改められ、TwitterやFacebookなどのSNSもやってみようかと思うようになりました。

※原文を一部修正しています

大人に期待されることと実態

情報モラル教育の主課題の変遷

- 
- ケータイは使わせない・持たせない(違法有害情報)
 - フィルタリング利用促進(コミュニティサイト)
 - ルールを一緒に考えよう(長時間利用や同級生間トラブル)
 - 健康・発達を守ろう(低年齢利用)
- 
- 活用能力の習得を支援(GIGAスクール時代)

リスクを列挙～
注意喚起
(モラル面を強調)

活用場面づくり～
実体験(小さな失敗)
から学ぶ

参考：国の基本計画の変化

• 第4次(2018年)

- 法改正を踏まえたフィルタリングの更なる利用促進
- 子供の低年齢期からの保護者・家庭への支援
- SNS等に起因するトラブル・いじめや被害の抑止対策の推進

• 第5次(2021年)

- 法改正を踏まえたフィルタリング利用率向上のための取組の更なる推進
- 青少年のインターネットを適切に活用する能力の向上促進
- ペアレンタルコントロールによる対応の推進

※内閣府 青少年インターネット環境整備基本計画の主なポイント(第4次、第5次)から一部を抜粋・加工
https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/suisin/pdf/dai5ji_gaiyo.pdf
https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/suisin/pdf/dai4ji_gaiyo.pdf

学校の新たな役割

- 活用の基礎的な知識と技能の習得

- 学齢に合った知識提示と協同学習の場は学校だけ(ボトムラインの底上げ)

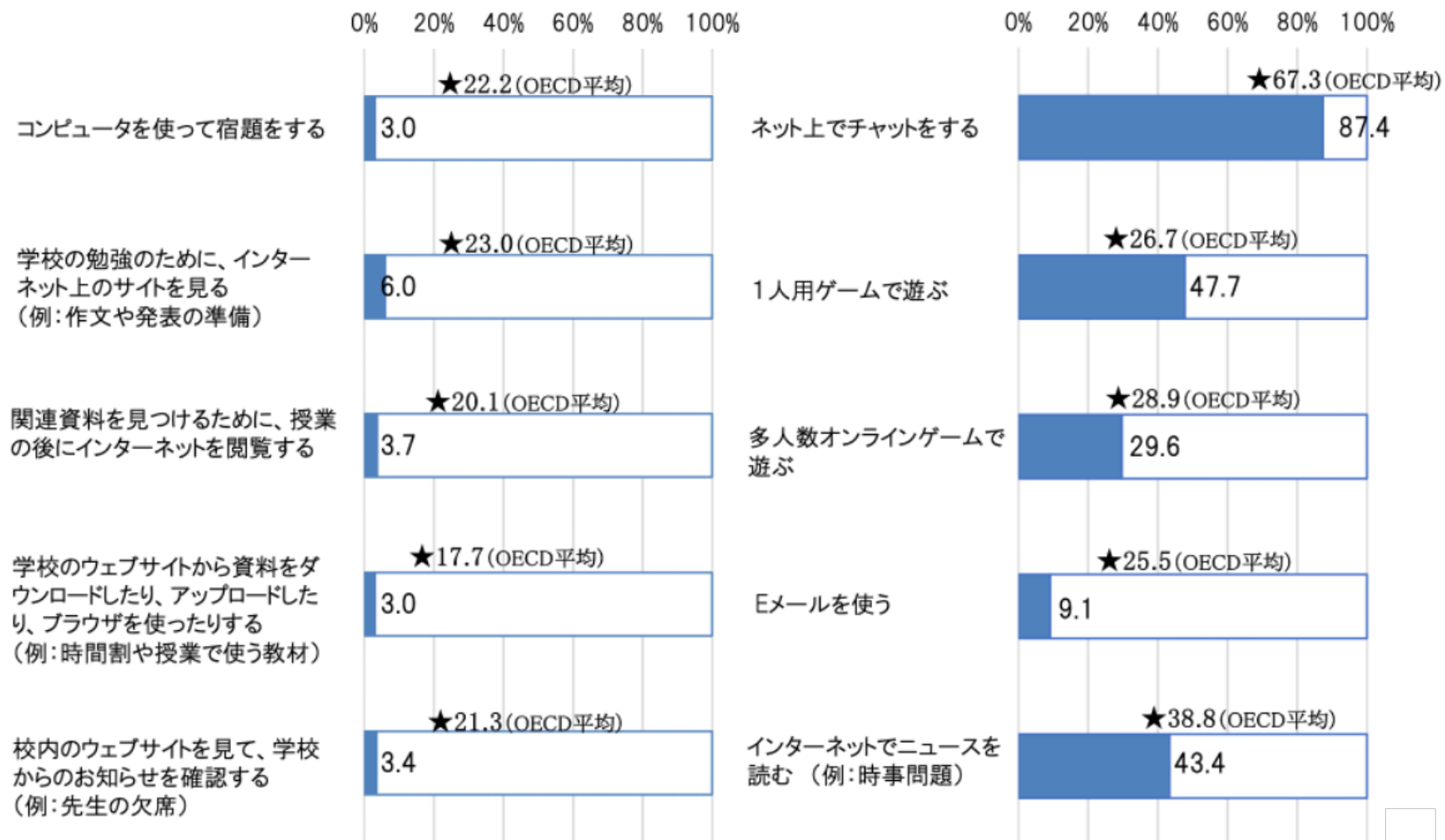
- ▶ ネットで情報を集め、取捨選択するための基礎(知的財産尊重や偽情報対策の基礎含む)

- ▶ ネットで効果的に書く、伝えるための基礎(マナー面にとどまらないスキルの習得)

- パブリックな利用場面づくり

- 学習課題や対外発表のためのネット利用

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



※OECD生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)のポイント(文部科学省)から抜粋 <https://www.mext.go.jp/content/000021454.pdf>

期待されるテーマの例

- 小学校低学年：遊び利用と節度
 - なぜ寝る時間を削っては／遊びが偏ってはいけないの？
 - ゲームやアプリの年齢区分は何のためにあるの？
- 小学校高学年：発信・やりとりの基礎
 - ネット経由のやりとりはふだんの生活と何が違う？(同じ？)
- 中学生：情報収集・発信の技能
 - どうすればより上手に探し、加工し、伝えられる？

参考：ネット活用学習に役立つ資料例

- NHK for School しまった！～情報活用スキルアップ～「インターネット検索」
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180233_00000
- NHK for School メディアタイムズ「フェイクニュースを見抜くには」
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180260_00000
- 総務省 放送分野におけるメディアリテラシー
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyoiku.html
- 国際図書館連盟(IFLA)による
「フェイクニュースの見極め方(COVID-19版)」
<https://www.ifla.org/node/93015/>
https://www.ifla.org/files/assets/hq/topics/info-society/how_to_spot_fake_news_covid-19_jp.pdf
- 日本ジャーナリスト教育センター(JCEJ)による海外教材の邦訳
<https://jcej.hatenablog.com/entry/2019/03/27/104845>
http://jcej.info/lib/BeyondFakeNewsPosterJP_v1.pdf
- 文科省 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00941.html
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

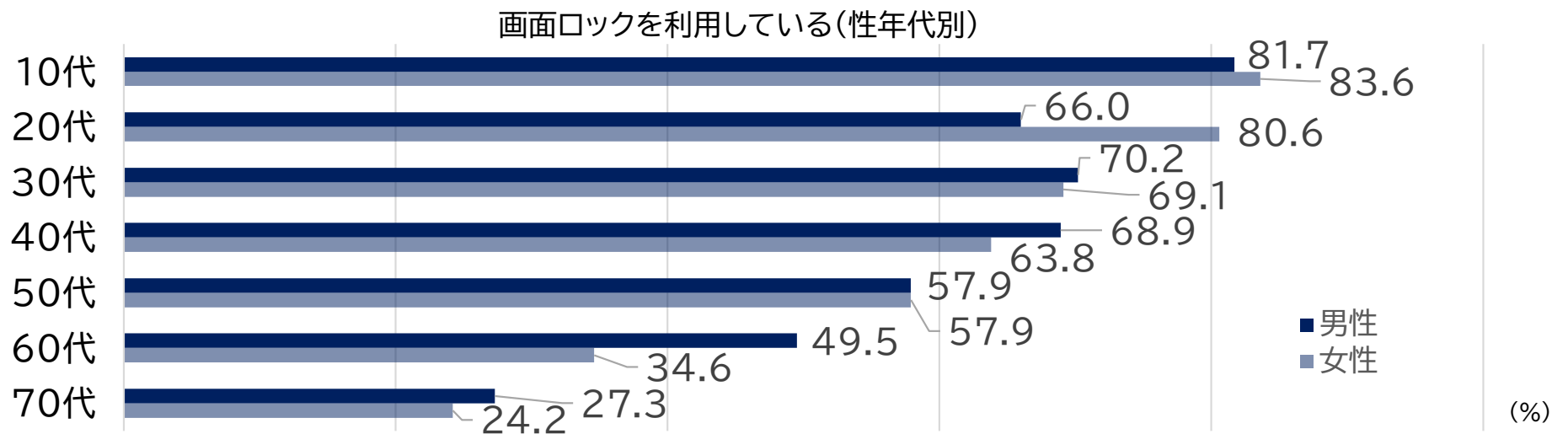
大人への期待

- 子どもの「好き」「楽しい」をまずは受け止める
 - 無関心、頭からの否定になりがち
- 指導者ではなく同じ一人の利用者として接する
 - 大人の経験と工夫(危険回避・活用の両面)を積極的に伝える
 - 子どものノウハウや失敗からともに学ぶ

大人の実態

- 活用している人・していない人のギャップが大
 - 基礎的な知識や経験が不足(学校は「最も遅れている場」の一つ)
- 大人自身の利用が消費・娯楽に偏り
 - 創造や協働、社会参加のための利用・伝聞経験に乏しい
→子どもの利用の否定(受け止められない)に

参考：携帯電話のセキュリティ対策



※モバイル社会研究所「モバイル社会白書2020年版」p.108 携帯電話へのセキュリティ対策、p.109 携帯電話へのセキュリティ対策[性年代別]から抜粋
<https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp20.html>

まとめ

- スキル習得機会の少なさが新たな「ネット問題」
 - 子ども時代は貴重な助走期間→現実の利用に偏り
- 大転換期を迎えた情報モラル教育
 - 知識・技能の習得支援と利用場面づくりへの期待
 - 大人自身が学び、変わるべきことは多い